

1 学校教育目標
「自ら学ぶ意欲」「思いやりの心」「たくましく生きる力」を育てる

2 学校経営ビジョン
(学校像) ・学ぶ意欲、生きる喜びを実感できる学校 ・風通しがよく地域とともに歩む学校 (児童像) ・学び合い高まり合う子ども ・体をきたえ交わり合う子ども (教師像) ・学ぶ姿勢を持ち「専門性」を高める教師 ・感性を豊かにし識見を高める教師 ・支持的風土と「恕」を実感できる学校 ・将来を見据え長期展望に立って育てる学校 ・辛抱強く思いやりのある子ども ・「使命感」溢れ自己研鑽を進める教師

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
○国語や算数の基礎的基本的事項の習得はもちろん、活用力の向上をめざす。特に国語の関心・意欲を高めるために楽しく分かる指導方法の工夫改善を行う。 ○学校生活習慣の確立のための「鹿島っ子しぐさ」を具現化し、相手尊重の生活態度の育成を行う。 ○家庭、地域との連携により、朝食・あいさつ・感謝の心など基本的生活習慣の定着を図り、風通しがよく地域全体で育てているという思い溢れる学校。	・T Tの効果的な活用により、国及び県の学習状況調査やC R Tにおいても全国とほぼ同じ結果を収めた。今後も更に維持向上を目指す。 ・関心・意欲を高めるために、楽しくしかも分かる授業の工夫改善(身近な問題や興味を起こす問題提示など)が課題である。 ・学習習慣は全校での共通理解が図られてきた。生活習慣、生活指導では保護者との連携を更に強化していく。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知並びに情報公開	・P T A総会、学校便り、ホームページを通して周知を図り、保護者の認知度を80%以上にする。	・昨年度と同じように学校だより、P T A総会、学級懇談会等で具体的取組を説明する。 ・ホームページで情報公開する。
	○教職員の資質向上	教職員の意識改革及び職員研修、授業研究の充実	・研究授業を全員実施し、授業力を向上させる。	・国語の授業研究会では講師を招聘し授業論、指導方法、指導技術等指導力を向上させる。
	○特色ある学校づくり	国語科や算数科における指導方法の工夫改善と学力向上 文科省指定による研究発表会の開催	・少人数T T指導教員を核にし指導方法の改善や学力向上に努める。 ・国語科の言語活動の具現化に努め他教科へ広げる。	・児童の実態に応じた指導方法の工夫改善を行う。 ・基礎基本の定着と「思考力・表現力」を向上させる。 ・国語科の研究を他教科へ発展させる。
	○危機管理体制の整備	交通事故・生活事故防止と危険回避能力の育成	・交通事故や生活事故、また不審者等の未然防止に努める。 ・各学期2回の集団下校を行う。	・交通安全教室の開催、不審者等への対応等、生活指導を強化する。 ・防犯ボランティア、青色パト等との連携を強化する
	○家庭との連携	保護者との信頼関係強化	・家庭との連携は「迅速・丁寧・誠実」を心掛け、電話での対応も言葉遣いに気を配る。	・学校、学級便り等定期的な発信を行う。 ・積極的な連絡体制を行う。 ・電話等での丁寧な対応を行う。
	○開かれた学校づくり	教育活動等学校の情報を家庭や地域に積極的に提供	・授業参観参加者率70%、学級懇談会参加者率50%以上にする。 ・フリー参観日で、地域住民参加者50名以上をめざす。	・フリー参観日を設定し、幼稚園や保育所、老人クラブ等へ呼びかける。 ・地域ボランティアの活用を推進する。

教育活動	●学力向上	基礎的・基本的学力の定着と思考力・表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県の学習状況調査では全国水準を上回る。 ・C R Tでは国語では、興味関心を高め、全国標準105以上、算数では110以上を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T Tを核とし児童を主体においた楽しく分かる指導を工夫する。 ・学期末には、全校一斉の漢字計算フェスタを行い、基礎的事項の徹底した定着を行う。 ・長期休業中に補充指導を行う。
	●心の教育	「鹿島っ子しぐさ」による自律的生活態度 「命・いじめを考える」 道徳時間の授業公開	<ul style="list-style-type: none"> ・生活態度のモデル化を行う。 ・月始めに「命・いじめを考える日」を設定する。 ・参観日には「心」「命」に関する道徳の授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律した生活態度を徹底させる。 ・命、いじめに関する取り扱いを行う。 ・授業参観日等には保護者参加型の道徳の授業を年1回実施する。 ・異学年活動やボランティア活動の実践。
	●健康・体づくり	基本的生活習慣の確立と運動、食、病気の予防と治療	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭、栄養教諭と連携し、健康教育、食育を進める。 ・運動の楽しさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察、時季に応じた健康管理の指導。 ・食育の推進 ・自分ができる範囲で、季節に合わせた体力づくりを勧める。
	○家庭学習習慣の育成	学習習慣の定着による学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間80%以上の達成をめざす。 低：30分程度、 中：45分程度、 高：1時間以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びのてびき（授業編・家庭学習編・生活編）」を作成配布し、学年に応じた家庭学習時間等の進め方等家庭への協力を依頼する。
	○読書指導	やさしい心を育てるための家庭読書等読書習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・年間読書冊数を90冊以上にする。また、50冊以下を20%以下にする。 ・「学年おすすめの本」の読書率80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイムを充実させる。 ・P T A 母親部や読み聞かせボランティア「はばたきの会」との連携した読み聞かせを実施する。
特定課題	●小学校低学年の学習環境の充実	基本的な学習習慣や生活習慣の確立 T Tの工夫、楽しくきめ細かな指導。	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気なあいさつ」「掃除」「人の話を聞く」「学習準備」の完全習得者を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的学習習慣、生活習慣の徹底的な定着のため家庭と連携を図る。 ・生活、学習習慣の発達段階に応じた指導を工夫する。
	○幼・保・小・中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内幼稚園、保育園との連携強化 ・西部中学校との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連携を年間2回以上、小中連携を年間5回以上開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連携では、授業の相互公開、体験授業などにより、小1プロブレム、中1ギャップ解消に取り組む。 ・本校で園児の授業・給食体験を行う。

6	総合評価

7	次年度への課題・改善策